野川マップ

野川

おすすめスポット





❷ むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡（国史跡）

聖武天皇の発願により諸国に建立された国分寺の一つ。僧寺金堂は全国最大級を誇ったが、新田義貞の鎌倉攻めの際に焼失したと伝わる。



❸ みちゆうすいえん おたかの道湧水園

国分寺崖線の豊かな自然を残す園内を湧水が流れ下り、お鷹の道の水路に注がれる。

開 9時～17時
休 月（祝日の場合は翌平日）、年末年始



■主な橋と橋の間の野川の距離

押切橋（おしきりばし） ◀0.6km▶ 一里塚橋（いちりづかばし） ◀1.1km▶ 鞍尾根橋（くらおねばし） ◀0.6km▶ 貫井大橋（ぬくいおおばし） ◀0.8km▶ 新前橋（しんまえばし）

湧水地 東京都の名湧水 57 選



野川流域には、源流部から下流部まで数多くの湧水地がある。
そこで湧き出た水が集まり、野川として流れる。

野川の源流の一つとなっている湧水地で、深閑とした森に囲まれている。日立中央研究所内にあり、年２回一般公開される。



❶ おおいけ 大池

❹ たかみちますがたいけゆうすいぐん お鷹の道／真姿の池湧水群（都名勝）

環境省名水百選に選ばれた真姿の池などからなる湧水群で、水路に沿って遊歩道がある。道の名は尾張徳川家のお鷹場に由来する。





国分寺駅の南に隣接する和洋折衷の回遊式林泉庭園。園内には湧水があり、野川の水源の一つ。

開 9時～17時（入園は16時30分まで） 休 年末年始

❺ とりつとのがやていえん 都立殿ヶ谷戸庭園（国名勝）

⑥ 貫井神社（ぬくいじんじゃ）



天正 18 年 (1590)、水神様の貫井弁財天を奉って創建。国分寺崖線内の社のわきには神水が湧き、この水も野川に注ぐ。

国分寺崖線の地形と湧水を巧みに取り入れた庭園。深い樹林は武蔵野の面影を伝えてくれる。

開 9 時～ 17 時（入園は 16 時 30 分まで）
休 火（祝日の場合は翌平日）、年末年始



⑦ 滄浪泉園（そうろうせんえん）



⑩ 都立武蔵野公園（とりつむさしのこうえん）

昔ながらの雑木林・広～い原っぱ・くじら山・苗圃などを配した野趣に富んだ公園。春は桜、夏は水遊び、秋は紅葉、冬は野鳥が楽しめる。

野川の調節池には、田んぼや池などを整備。植物や生きものの観察、田植え体験など、自然とふれあいながら自然環境の再生を目指している。



⑪ 野川自然再生地区（のがわしぜんさいせいちく）



◀1.0km▶ 小金井新橋（こがねいしんばし） ◀0.9km▶ 二枚橋（にまいばし） ◀1.0km▶ 富士見大橋（ふじみおおはし） ◀1.6km▶ 大沢橋（おおさわばし） ◀0.7km▶ 御塔坂橋（おとさかばし）

⑧ 小金井市立はけの森美術館（こがねいしりつ もりびじゅつかん）



洋画家中村研一の作品を中心に紹介する所蔵作品展と企画展を年 3 ～ 4 回開催。

開 10 時～ 17 時（入館は 16 時 30 分まで）
休 月（祝日の場合は翌平日）、年末年始、展示替期間

緑地内にある旧中村研一邸主屋と茶室は、国登録有形文化財（建造物）。主屋は、喫茶棟として活用。

開 10 時～ 17 時（喫茶棟は 16 時 30 分まで、LO：16 時）
休 月（祝日の場合は翌平日）、年末年始（喫茶棟は不定休あり）



⑨ 美術の森緑地（びじゅつのもりりょくち）



⑫ 都立野川公園（とりつのがわこうえん）

園内を流れる野川ではカワセミやカルガモなど野鳥が憩い、わき水広場では水遊びをする子どもたちで賑わう、懐かしい水辺の光景が残る公園。

文化 5 年（1808）頃に創設。当時の水車機構がそのまま残り水輪が回る様子を公開。

開 10 時～ 17 時（冬期は 16 時）
休 火（祝日の場合は翌平日）、年末年始



⑬ 水車経営農家（しんぐるま）（すいしゃけいえいのうか）

⑭ 大沢の里（おおさわ　さと）





湿生花園を中心にホタルの生育環境を整えた公園。園内には、ちびっこ農業体験などが行われる水田、隣接地には湧水を利用したワサビ田が見られる。
保存された古民家は一般に公開。【大沢の里古民家】

開 10 時～ 17 時（冬期は 16 時）
休 火（祝日の場合は翌平日）、年末年始

⑰ 深大寺自然広場内 野草園（じんだいじしぜんひろばない　やそうえん）



野草園には約 300 種 1 万本以上の野草があり、ムラサキなどの珍しい花もある。深大寺自然広場内にはデイキャンプができるかに山もある。
※野草園の開園時間と休園日
開 10 時～ 16 時（3 月から 10 月）
休 月・祝日、6 月から 10 月までは月・祝日・第 1、3、5 の土日



⑱ 武者小路実篤記念館・実篤公園（むしゃこうじさねあつきねんかん・さねあつこうえん）

武者小路実篤が晩年２０年間を過ごした邸宅と庭が公園となり、四季折々の武蔵野の自然を楽しめる。隣接の記念館では実篤の書画・原稿などが展示されている。
開 9 時～ 17 時 休 月（祝日の場合は翌平日）、年末年始



⑮ 都立神代植物公園（とりつじんだいしょくぶつこうえん）



約 4800 種類、約 10 万株の植物を集めた花と緑の公園。水生植物園や植物多様性センターなどもある。
開 9 時 30 分～ 17 時（水生植物園は 16 時 30 分まで）
休 月（祝日の場合は翌平日）、年末年始



⑯ 深大寺（じんだいじ）

豊かな緑と湧き水に恵まれた関東屈指の古刹。国宝に指定された白鳳仏（釈迦如来像）、国の重要文化財である梵鐘などの寺宝が安置されている。



⑲ 前原公園（まえはらこうえん）

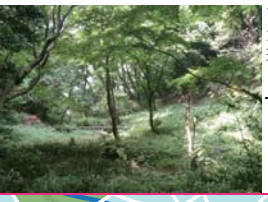
別名とんぼ池公園。園内にある池では、トンボをはじめ様々な昆虫や水草などが観察できる。

小田急線車庫上に作られた公園。展望広場、多目的広場、ちびっこ広場と分かれ、四季折々草花が楽しめる。冬には富士山も望める。



⑳ きたみふれあい広場（ひろば）

㉑ 神明の森みつ池



自然保護のため、一般開放は年数回の観察会に限られているが、２３区でも貴重な動植物が見られる。

連絡先：世田谷区 みどり３３推進担当部 公園緑地課 砧公園管理事務所 ０３－３４１７－９５７５

国分寺崖線の樹林を緑地として保全している。湧水が二ヶ所あり、セキショウの湿性植物群落がある。



㉒ 成城三丁目緑地

㉓ 次大夫堀公園



江戸時代、小泉次大夫吉次の指揮によって作られた農業用水と、水田周囲の農村風景を復元した公園。民家園も併設している。

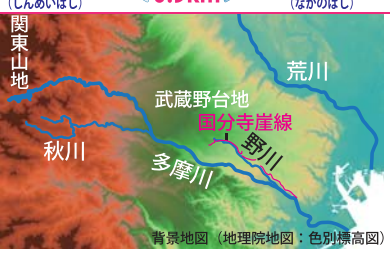
東名高速道路と環八通りに囲まれているとは思えぬほど静かな都会のオアシス。園内には世田谷美術館もある。



㉔ 都立砧公園



神明橋 (しんめいばし) ◀0.9km▶ 中之橋 (なかのはし) ◀0.8km▶ 喜多見大橋 (きたみおおはし) ◀0.8km▶ 新井橋 (あらいばし) ◀0.7km▶ 天神森橋 (てんじんもりばし) ◀1.0km▶ 吉澤橋 (よしざわばし) ◀0.9km▶

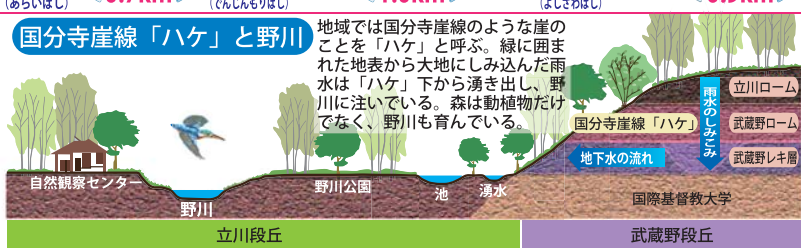


国分寺市から流れ出し、武蔵野台地の南端を流れ、世田谷区で多摩川に注ぐ、全長約 20km の川。流域面積は約 70km^2。

野川の北縁に沿った急な崖（国分寺崖線）は、多摩川によってつくられた河岸段丘の一つで、この崖下から野川の源となる水が湧いている。

国分寺崖線「ハケ」と野川

地域では国分寺崖線のような崖のことを「ハケ」と呼ぶ。緑に囲まれた地表から大地にしみ込んだ雨水は「ハケ」下から湧き出し、野川に注いでいる。森は動植物だけでなく、野川も育んでいる。



㉕ 岡本公園（おかもとこうえん）



岡本静嘉堂緑地に連なる崖線の緑地を背にした公園で、民家園も併設している。また、静嘉堂文庫美術館も併設。

㉖ 兵庫島公園（ひょうごじまこうえん）



国分寺崖線の豊かな緑を望み、兵庫池や開放的な芝生の広場。多摩川の水辺の環境と歴史を生かした憩いの場となっている。



発行：野川流域環境保全協議会

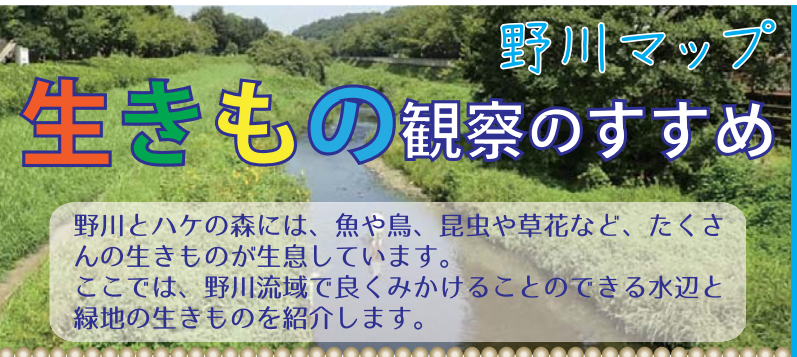
●小金井市	環境部 環境政策課	☎042-387-9817（直通）
●国分寺市	建設環境部 緑と建築課	☎042-325-0111（内線）353
●三鷹市	都市整備部 緑と公園課	☎0422-45-1151（内線）2833
●調布市	環境部 環境政策課	☎042-481-7086（直通）
●狛江市	環境部 環境政策課	☎03-3430-1111（内線）2561・2562
●世田谷区	土木部 土木計画課	☎03-5432-1111（代表）

・編集協力：株式会社サンワコン
・資料協力：野川流域連絡会、地元有志

発行日：2020 年 1 月

R70
古紙パルプ配合率 70%再生紙を使用

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキを使用しています。



野川マップ
生きもの観察のすすめ

野川とハケの森には、魚や鳥、昆虫や草花など、たくさんの生きものが生息しています。
ここでは、野川流域で良くみかけることのできる水辺と緑地の生きものを紹介します。



水生生物の観察

野川では、ドジョウやメダカ、コイやナマズ、スジエビ、スッポンなどたくさんの生きものを見ることができます。
湧水地は、低水温できれいな水が流れ、ホトケドジョウやサワガニなどを見ることができます。

野鳥の観察

野川を代表する鳥として、カワセミが見られます。また、カモの仲間やサギの仲間など多くの鳥に出会うことができます。
ハケの森では、オオタカやフクロウなどにも出会うことができます。





昆虫の観察

ハケの森では、カブトムシやクワガタ、チョウの仲間を見ることができます。
水辺では、多くのトンボの仲間やゲンジボタルなども見られます。

植物の観察

野川では、ヒメガマやヨシ、湧水地では、ミクリやセキショウなどを見ることができます。
ハケの森では、クヌギやコナラなどの樹木や、キツネノカミソリやニリンソウなどの花々が見られます。



上流の水



図鑑に外がついているのは、外来種。特がついているのは、特定外来生物。

鳥類

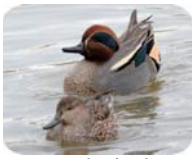
※留鳥（りゅうちょう）とは、年間を通して野川周辺に生息し、季節による移動をしない鳥。

カルガモ・留鳥・60.5 cm



くちばしの先は黄色。5～8月頃ヒナを連れた家族が見られる。

コガモ・冬鳥・37.5 cm



オスは頭部が栗色、目の周囲が緑色。カモ類で一番小さい。

カイツブリ・留鳥・26 cm



カモ類より小さい水鳥。盛んに潜水し小魚や昆虫を食べる。

コサギ・留鳥・61 cm



くちばしが黒色、指先が黄色。指先で魚を追い出し捕食する。

昆虫類

ハグロトンボ・6～11月・57～68㎜



オスのお腹は緑色に輝く。水のきれいな緩い流れに生息。

アオモンイトトンボ・4～9月・30～35㎜



オスの腹部の第8・9節が水色。メスは同色型と異色型がいる。

シオカラトンボ・5～11月・47～61㎜



オスもメスもお尻の先が黒い。メスは別名むぎわらトンボ。

ウスバキトンボ・6～10月・44～54㎜



水辺で良く見られる。翅の幅が広く、体は赤褐色。

魚類

底生魚

ドジョウ・10 cm程度



川底が泥の環境を好む。体は細長い。口ひげは10本。

シマドジョウ・10 cm程度



砂礫の環境を好む。体側に円形の黒いはん紋が並ぶ。口ひげは6本。尾びれが角ばる。

ホトケドジョウ・6 cm程度



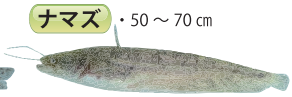
湧水の冷たい水の環境を好む。体は短く太く、頭は上下に平たい。口ひげは8本。

カマツカ・13 cm程度



体やひれに斑紋があり、口先は長く下に尖る。砂礫の環境を好む。口ひげは2本。

ナマズ・50～70 cm



背びれが小さい。口ひげは4本あり2本は非常に長い。夜行性。

遊泳魚

ミナミメダカ・5 cm程度



目が大きい。しりびれが幅広くて長細い。

カワムツ・15 cm程度



オイカワに似るが、背びれ前端が赤く体側に藍色の線がある。

タモロコ・8 cm程度



体の側面にぼんやりした線がある。口ひげは2本。

モツゴ・8 cm程度



口先がとがり、上を向いている。体の側面に黒くて目立つ線がある。

野川流域の水辺の生きもの





水辺の生きもの図鑑

ダイサギ ・留鳥 ・90 cm



くちばしは夏に黒色、冬に黄色になる。写真右の鳥はコサギ。

アオサギ ・留鳥 ・93 cm



日本で一番大きなサギ。半夜行性で昼間はよく休息している。

ゴイサギ ・留鳥 ・57.5 cm



夜行性で、日中はじっとし、夕方になると餌場に飛び立つ。

カワセミ ・留鳥 ・17 cm



「水辺の宝石」と呼ばれる。水中に飛び込んで魚を捕える。

カワウ ・留鳥 ・82 cm



潜水して魚を食べる。濡れると翼を広げて乾かす。

バン ・留鳥 ・32 cm



足は黄緑色で指が長い。警戒心が強く水辺の草に隠れる。

イソシギ ・留鳥 ・20 cm



尾を上下に振りながら水辺を歩き、水生昆虫等を食べる。

タシギ ・冬鳥 ・27 cm



長いくちばしを泥の中にさしこんで、ミミズなどを食べる。

ギンヤンマ ・5～10月 ・65～84㎜



オスの腹部のつけ根は、水色、メスは黄緑色。

オニヤンマ ・6～10月 ・82～114㎜



日本最大のトンボ。幼虫の頃は湧水地に生息。

アキアカネ ・6～12月 ・32～46㎜



アカトンボの代表種。夏に山手に移動、秋に低地に現れる。

ミヤマアカネ ・7～11月 ・30～41㎜



ミヤマとあるが川べりや調節池の田んぼに生息。

ゲンジボタル ・5～7月 ・15㎜



幼虫（右）は湧水地でカワニナを食べる。６月頃羽化し、光を使った繁殖を行う。

植物

オギ ・花9～10月 ・多年草



穂先にノギと呼ばれる毛がない。

ヨシ ・花8～9月 ・多年草



川岸などに生える。高さ２～3m。

ミクリ ・花6～7月 ・多年草



野川の湧水沿いで見られる。

ウキゴリ ・10 cm程度



背びれが２つあり、第１背びれの後縁に黒点がある。

スミウキゴリ ・8 cm程度



ウキゴリに似て尾のつけねが黒いが、背びれに黒点はない。

クロダハゼ（トウヨシノボリ） ・6 cm程度



代表的なヨシノボリの仲間。流れの緩やかな場所にいる。

甲殻類

カワリヌマエビ属 ・1 cm程度



水際の水没した草の中に多数生息。

スジエビ ・5 cm程度



スジが明瞭。淵や淀みの大きな石の周囲に生息。

アメリカザリガニ 外 ・10 cm程度



雑食性で水の汚れに強い。

サワガニ ・甲幅 3 cm



野川本流には少ないが、湧水地に生息。

ギンブナ ・15～40 cm



口ひげはない。背びれの１番目のとげがかたい。

コイ ・40～80 cm 外



フナよりも淀みや深いところを好む。口ひげは４本。

オイカワ ・15 cm程度



オスの婚姻色はきれい。しりびれが後ろにのびている。

アブラハヤ ・10 cm程度



黒っぽい線が１本ある。ねん液が多く、触るとヌルヌルする。

タイリクバラタナゴ ・6 cm程度 外



目の周りが赤い。体の側面に青い線がある。

アユ ・15～25 cm



背びれと尾びれの間に脂（あぶら）びれがある。川底の石に生えた珪藻を食べる。

貝類

サカマキガイ ・1 cm程度 外



殻は薄く左巻き。水の汚れに強い。

カワニナ ・3 cm程度



ゲンジボタルの幼虫の餌として知られる。比較的きれいな水を好む。

タイワンシジミ ・2 cm程度



マシジミに似るが、殻の内面が一面濃紫色。砂地に潜っている。あまりおいしくない。

両生類

ニホンアマガエル



・3 cm程度
田んぼなどによく産卵する。

アズマヒキガエル ・6～18 cm



身を守るために皮膚から毒を出す。

ニホンアカガエル



・5 cm程度
林に棲んでいて産卵の時に水辺に集まる。

ウシガエル



特 貪欲に他の生物を食べる。牛のような声で鳴く。
・12～20 cm

辺の様子



湧水地

下流は、多摩川との合流部が近いため、多摩川と野川を行き来する生きものも見られます。また、瀬や淵といった多様な流れが形成され、深いところには、コイやナマズなど大型の魚類が生息しています。

クイナ・冬鳥・29 cm



水辺の草地で見られるが、警戒心が強く茂みに逃げ込む。

ハクセキレイ・留鳥・21 cm



「チッチチッ」と澄んだ声で鳴く。よく尾を上下に振る。

セグロセキレイ・留鳥・21 cm



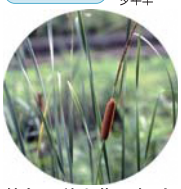
黒色の顔に白色のまゆ。「ジジッジジッ」とにごった声で鳴く。

キセキレイ・留鳥・20 cm



お腹が黄色い美しいセキレイ。清流を好む。

ヒメガマ・花6～7月・多年草



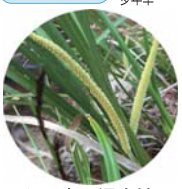
茶色の穂を指で押すと種があふれ出す。

ケイヌビエ・花8～10月・一年草



穂先に毛がある。水辺や湿地に生える。

セキショウ・花4～5月・多年草



ハケの森の湧水地に群生している。

アレチウリ・花8～9月・一年草 特



河川敷に繁茂している。

モクズガニ・甲幅7 cm



ハサミに毛が生えている。

水生昆虫

アメンボ



・15mm 程度

４本肢に見えるが、短い前肢が２本ある。

タイコウチ



・35mm 程度

鎌状の前肢で獲物を捕らえ、体液を吸う。

ニンギョウトビケラ属幼虫



・10mm 程度

石粒で巣をつくる。きれいな水を好む。

シマアメンボ



・5mm 程度

体に模様がある。湧水地の水面にいる。

マメゲンゴロウ



・7mm 程度

後肢にブラシ状の毛があり、泳ぎが得意。

コカゲロウ属幼虫



・10mm 程度

石に付着する珪藻などを食べる。

ヒゲナガカワトビケラ幼虫

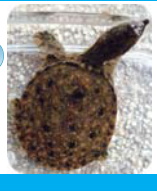


・40mm 程度

大小の石を糸で組み合わせた巣を作る。

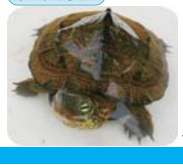
は虫類

スッポン・甲長20～35 cm



甲羅が柔らかく、泥底を好む。

クサガメ・甲長18～25 cm 外



とても臭いにおいがするためクサガメと呼ばれる。

ミシシッピアカミミガメ・甲長12～30 cm 外



石の上で甲羅干しをする。

上流の緑



湧水地

鳥類

モズ・留鳥・20 cm



見かけによらず獰猛。トカゲや昆虫などの小動物を食べる。

キジバト・留鳥・33 cm



「デデポッポー」と鳴く。カワラバトと違い１～２羽でいる。

ハシブトガラス・留鳥・56.5 cm



「カアカア」とすんだ声で鳴く。ごみをよく荒らす。

ハシボソガラス・留鳥・50 cm



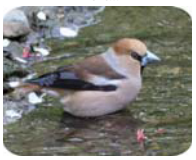
「ガアガア」と濁った声で鳴く。鳴く時におじぎをする。

アオジ・冬鳥・16 cm



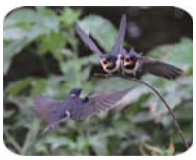
単独で行動する。春先には、やぶのふちや木の枝に姿を現す。

シメ・冬鳥・18 cm



尾が短く、力強いくちばし。かたい種子も割って食べる。

ツバメ・夏鳥・17 cm



低く飛ぶと雨が降ると言われている。人家にも巣を作る。

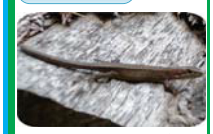
オオタカ・留鳥・50 cm



河原や大きな公園の樹木にとまり、大型の鳥などもねらう。

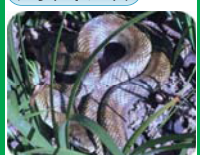
は虫類

ニホンカナヘビ・15～20 cm



護岸の上で日向ぼっこしている姿をよく見かける。

アオダイショウ・1～2m



日本最大のヘビ。無毒だが、不用意に掴むと噛まれる。

昆虫類

オオセイボウ・6～10月・12～20 mm



青緑と紫が美しいハチ。スズバチの巣に産卵する。

キタキチョウ・3～11月・20～25 mm



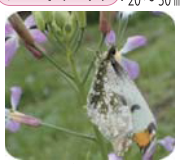
成虫の状態で越冬するので、早春の頃はよく目立つ。

ツマグロヒョウモン・4～12月・30～40 mm



メスは前翅の先が黒い。幼虫の食草はスミレ。

ツマキチョウ・3～5月・20～30 mm



翅の裏がカモフラージュ柄。オスの前翅の先が黄色。

ベニシジミ・6～9月・15～18 mm



幼虫はギシギシを食べる。成虫は一度に遠くまで飛ばない。

ヒメジャノメ・5～9月・20～26 mm



幼虫はイネ科やスゲなどを食べ、成虫は樹液に集まる。

野川流域の緑地の生きもの



地の様子

上流のハケの森の多くは、以前は別荘地や宅地でしたが、現在は公園や緑地となっている場所が多くあります。武蔵野らしい植物と庭に植えられた植物が混ざり合っていますが、自然豊かな緑地が維持されています。



下流の緑

湧水地

緑地の生きもの図鑑

オナガ ・留鳥 ・37 cm



カラスの仲間だが、尾が長く頭が黒く、羽はきれいな青色。

ヒヨドリ ・留鳥 ・27.5 cm



「ピーヨピーヨ」と大きな声で鳴く。街路樹でも見られる。

ムクドリ ・留鳥 ・24 cm



秋冬は群れて多い時は数千羽の集団でねぐらを形成する。

シジュウカラ ・留鳥 ・14.5 cm



のど元から腹にかけてネクタイがあり、太いのが雄。

メジロ ・留鳥 ・11.5 cm



目の周りの白いリングが目立つ。梅などの花蜜をよく吸う。

カワラヒワ ・留鳥 ・14.5 cm



ナタネなどの種子に群がる。飛ぶ時翼の黄色の部分が目立つ。

コゲラ ・留鳥 ・15 cm



キツツキ類で最小。枯木に穴を空けて巣を作る。

アオゲラ ・留鳥 ・29 cm



日本固有の大型のキツツキ類。生木に穴を空けて巣を作る。

チョウゲンボウ ・留鳥 ・30 cm



上空で羽ばたきながら静止し、餌をさがす姿がよく見られる。

フクロウ ・留鳥 ・50 cm



夜にネズミなどを狩る。耳がよく、音を頼りに狩りをする。

植物

クズ ・花8～9月 ・多年草



根からデンプンを採取し、つるはカゴなどの材料に使う。

ワルナスビ ・花6～10月 ・多年草 外



とげが多く害草とされる。

ユウゲショウ ・花5～9月 ・多年草 外



夕方に花を咲かせることから名がついた。

カラスノエンドウ ・花3～6月 ・二年草



つる性の植物。豆は熟すと黒くなる。

ムラサキケマン ・花4～6月 ・越年草



直射日光の当たらない場所に生育。有毒。

ネジバナ ・花4～9月 ・多年草



湿った日当たりのいい場所に生育する。

ツバメシジミ ・4～10月 ・11～14 mm



翅にツバメの尾のような突起がある。マメ科の草原に多い。

ゴマダラチョウ ・5～8月 ・35～42 mm



幼虫の食草はエノキ。落ち葉の中で幼虫越冬する。

カラスアゲハ ・4～9月 ・45～70 mm



後翅の表は青緑色で美しい。春はツツジの花などを訪蜜。

ショウリョウバッタ ・8～11月 ・50～80 mm



日本で最大のバッタ。イネ科植物が生える草地によく見られる。

オオカマキリ ・8～11月 ・70～95 mm



丈の高い草地でよく見られる。緑色と茶色の個体がいる。

アブラゼミ ・7～9月 ・53～60 mm



翅に茶色のまだら模様。「ジジジジー」と鳴く。

ツクツクボウシ ・7～10月 ・40～47 mm



成虫は７月から発生するが、初秋になると鳴き声が目立つ。

タマムシ ・6～9月 ・25～40 mm



色の美しさから宝石に例えられる。ハケの森で稀に見られる。

アオスジアゲハ ・4～10月 ・45～55 mm

ナミアゲハ ・4～10月 ・53～60 mm

キアゲハ ・4～10月 ・40～65 mm



左がアオスジアゲハ、中央がナミアゲハ、右がキアゲハ。雨上がりなど急に気温が上昇した晴天の日は、アゲハ類が吸水に集まる。

オンブバッタ ・8～12月 ・20～40 mm



小さい個体をおんぶする姿をよく見るが、子どもではなく雄。

コバネイナゴ ・8～11月 ・33～44 mm



田んぼや周辺でよく見られる。側面に黒色の線がある。

エンマコオロギ ・8～11月 ・26～34 mm



日本で最大のコオロギ。翅をすり合わせ「コロコロ」と鳴く。

ナミテントウ ・3～11月 ・4.7～8.2 mm



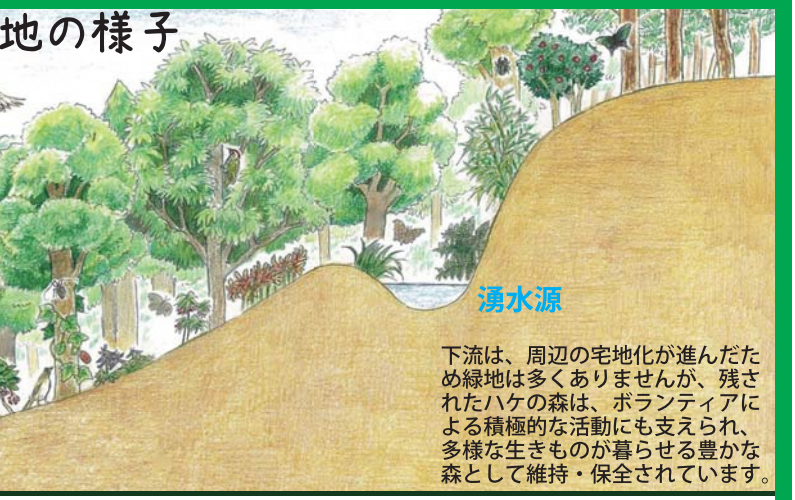
成虫で越冬する。背中のはん紋は個体で変異が大きい。

ナナホシテントウ ・3～11月 ・5.0～8.6 mm



背中に７つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。

地の様子



下流は、周辺の宅地化が進んだため緑地は多くありませんが、残されたハケの森は、ボランティアによる積極的な活動にも支えられ、多様な生きものが暮らせる豊かな森として維持・保全されています。

エナガ ・留鳥 ・13.5 cm



樹木の多い公園等で見られる。繁殖期以外は群れで行動する。

シロハラ ・冬鳥 ・24 cm



腹部が白い。地面に降りて昆虫や木の実を食べる。

ツグミ ・冬鳥 ・24 cm



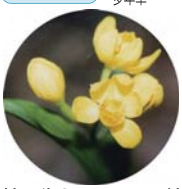
芝地などで２～３歩歩いては胸を張り止まる動作を繰り返す。

ウグイス ・留鳥 ・15.5 cm



「ホーホケキョ」とさえずる。笹やぶなどで姿が見られる。

キンラン ・花４～６月 ・多年草



林に生え、３～ 10 輪位の花をつける。

キツネノカミソリ ・花８月 ・多年草



明るい林床に自生。毒がある。

ヤマユリ ・花７～８月 ・多年草



見た目が豪華「ユリの王様」と呼ばれる。

ニリンソウ ・花４～５月 ・多年草



ニリンソウだが二輪じゃないこともある。

キボシカミキリ ・５～11月 ・14～30 mm



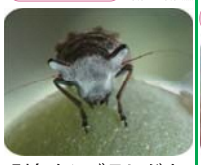
触覚が長い。背中に薄黄色のはん点がある。

アカスジキンカメムシ ・６～８月 ・17～20 mm



成虫は美しく、コナラやエゴノキなどの果実の汁を吸う。

エゴヒゲナガゾウムシ ・６～８月 ・3.5～5.5 mm



別名ウシヅラヒゲナガゾウムシ。エゴノキの実に集まる。

カブトムシ ・６～８月 ・32～53 mm



夜にクヌギやコナラの木を見て回ると、発見できる。

コクワガタ ・５～９月 ・17～54 mm



日中は樹木の根際や土中に潜み、夜になると活動する。

ノコギリクワガタ ・６～９月 ・39～71 mm



長い大あごをもつ。樹木の高い所で休んでいることが多い。

貝類

ミスジマイマイ ・４～11月 ・殻径 19 mm程度



殻は右巻き。スジがはっきりしているものが多い。

哺乳類

ホンドタヌキ ・40～50 cm



活動時間は主に夜間。雑食でなんでも食べる。